

# オナモミ

園長室便り

認定こども園辻ヶ丘幼稚園 永井三亮 16/11/30



「娘と秋の実で遊ぼうとオナモミを探しましたが、見つからず、サイトで検索を試み、貴園のオナモミで遊んだとのブログを拝見し、一つ頂けないかとメールしました。昔は、身近にあったものですが、少し寂しいですね」とのメールにある先生が「一つといわず必要なだけお使いください」と応じた。「こんな回答が頂けるなんて・・・」「いつでもどうぞ」「明日お伺いします」などとメールのやりとりが続き、「本園では、季節に因んだ遊びとして、オナモミを育てています。この時季、服や帽子に付けて遊ぶ様子が多く見られます。」などと楽しい

会話が弾み、喜んでいただいた。お帰りの際の後ろ姿に、親子の楽しい語らいやクッツキムシで遊んでいる楽しそうな姿を重ねながら見送る先生たちでした。

自然と共に生き、自然から多くを学んできた人々の歴史があり、小・中・高等学校で学ぶ多くの学習内容は、人々が長い年月かけて学んできたことを教科というジャンル毎に系統的に配列し、短期間の中に学び、社会人としての貢献、更には、先人の知恵(知識や技術及び学問や文化など)をベースにして新しいものを生み出せることを期待するような形になっています。

そして、バイオやナノテクノロジー、トンボに学ぶ航空力学、動物の動きに学ぶロボット工学、植物に学ぶ新薬の開発など最新の研究や先端技術でさえも自然に学び、多くの成果を挙げていると聞きます。

本園では、このようなことから、興味関心が著しく拡大する幼児期にこそ自然に親しむ活動が重要であると考え、季節を感じる植物の栽培や年間を通したイネの栽培、メダカや昆虫及び小動物の飼育(命の存在・命の連続性)、芋の栽培や鍛錬遠足などの園外保育も自然に触れる活動と組み合わせるなど、自然に親しむ活動を軸にしながら、年齢にふさわしい、また、一人一人の個性や発達課題を踏まえながら、「健康」「環境」「人間関係」「言葉」「表現」の五領域の「ねらい」がバランスよく達成できるように意図的計画的な保育実践を進めようとしています。(前号参照)

先生たちの日々のブログにより、一通のメールが届き、図らずもお役に立てることにつながり、変化しつつある自然を憂える人の思いに触れられたことや先生たちの思いが伝えられ、更に自然に親しむ活動を大事にすべきと再認識したことはとても意義あることだったと思う次第です。

